

青森県経済統計報告

平成18年8月2日
企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（平成18年7月1日現在）..... 1

県人口	1,424,501人（対前月 741人 減少）
自然動態	279人減少（出生者数 910人、死亡者数 1,189人）
社会動態	462人減少（転入者数 1,345人、転出者数 1,807人）

2 本県の経済動向

（1）経済概況

本県経済は、生産面や消費面の一部に改善の動きがみられるものの、全体としては足踏み状態が続いている。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 製造業の生産動向 平成18年5月の青森県鉱工業生産指数(平成12年=100)は、季節調整済指数が91.0で、前月比2.4%の上昇となり、2ヶ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は91.7で、前年同月比4.9%の上昇となり、2ヶ月ぶりに前年同月を上回った。 ... 2
- (2-2) 雇用情勢 平成18年5月の定期給与は224,093円で前年同月比4.3%減となった。総実労働時間は154.3時間で前年同月比2.2%増、所定外労働時間は7.9時間で前年同月比14.1%減となった。平成18年6月の有効求人倍率(季節調整値)は0.44倍で、前月より0.02ポイント上回った。 ... 3
- (2-3) 物価 平成18年6月の青森市消費者物価指数は、103.2となり、前月と同水準、前年同月と比べ1.1%の上昇となった。 ... 4
- (2-4) 個人消費 平成18年5月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが142億4千2百万円で前年同月比1.4%減、既存店ベースが2.4%減でいずれも6ヶ月連続で減少となった。平成18年6月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は4,240台で、前年同月比3.7%の増となり、4ヶ月ぶりに前年を上回った。 ... 5
- (2-5) 住宅建設 平成18年6月の新設住宅着工戸数は755戸で、前年同月比9.4%増となり、3ヶ月連続で前年を上回った。 ... 6
- (2-6) 企業倒産 平成18年6月の企業倒産件数は12件で、前年同月比2件(14.3%)減となり、2ヶ月連続で前年を下回った。 ... 6

（3）景気動向指数（平成18年5月分）..... 7

先行指数	44.4%（3か月連続で50%を下回った）
一致指数	44.4%（2か月連続で50%を下回った）
遅行指数	83.3%（5か月連続で50%を上回った）

（4）青森県景気ウォッチャー調査（平成18年7月期）..... 8

3ヶ月前と比べた景気の現状判断DI	43.8（前期比4.9ポイント減、21期連続50を下回る）
3ヶ月後の景気の先行き判断DI	49.3（前期比2.2ポイント減、2期ぶりに50を下回る）

1 青森県の推計人口(平成18年7月1日現在)

【概況】

平成18年7月1日現在の本県推計人口は、1,424,501人で、前月に比べ741人の減少となった。

○自然動態

出生者数が910人、死亡者数が1,189人で、279人の減少となった。

○社会動態

転入者数が1,345人、転出者数が1,807人で、462人の減少となった。

総人口の推移

(単位:人)

	総数	性別		対前月増減率	増減数	自然増減数			社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数
		男	女			出生者数	死亡者数	自然増減数			
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平 2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17. 7. 1	1,440,721	682,329	758,392	-0.046%	-668	-320	831	1,151	-348	1,434	1,782
17. 8. 1	1,440,005	681,879	758,126	-0.050%	-716	-227	844	1,071	-489	1,906	2,395
17. 9. 1	1,440,226	681,995	758,231	0.015%	221	-258	1,007	1,265	479	2,513	2,034
17.10.1	1,436,628	678,989	757,639	-	-542	-149	942	1,091	-393	1,738	2,131
17.11.1	1,436,285	678,775	757,510	-0.024%	-343	-259	931	1,190	-84	1,777	1,861
17.12.1	1,435,625	678,406	757,219	-0.046%	-660	-366	863	1,229	-294	1,323	1,617
18. 1. 1	1,434,907	678,029	756,878	-0.050%	-718	-418	790	1,208	-300	1,184	1,484
18. 2. 1	1,433,662	677,352	756,310	-0.087%	-1,245	-685	851	1,536	-560	1,119	1,679
18. 3. 1	1,432,666	676,827	755,839	-0.069%	-996	-470	754	1,224	-526	1,217	1,743
18. 4. 1	1,426,674	673,583	753,091	-0.418%	-5,992	-393	925	1,318	-5,599	4,191	9,790
18. 5. 1	1,425,905	673,208	752,697	-0.054%	-769	-356	818	1,174	-413	4,422	4,835
18. 6. 1	1,425,242	672,768	752,474	-0.046%	-663	-271	984	1,255	-392	1,643	2,035
18. 7. 1	1,424,501	672,250	752,251	-0.052%	-741	-279	910	1,189	-462	1,345	1,807

6月中の人口動態の推移

(単位:人)

年月		平9.6	10.6	11.6	12.6	13.6	14.6	15.6	16.6	17.6	18.6
自然動態	出生者数	1,169	1,220	1,160	1,142	1,005	967	992	985	831	910
	死亡者数	970	1,041	1,034	971	1,008	1,011	1,045	1,064	1,151	1,189
	自然増減数	199	179	126	171	-3	-44	-53	-79	-320	-279
社会動態	県外からの転入者数	1,648	1,604	1,554	1,567	1,451	1,406	1,559	1,413	1,434	1,345
	県外への転出者数	1,568	1,566	1,533	1,653	1,658	1,655	1,637	1,729	1,782	1,807
	社会増減数	80	38	21	-86	-207	-249	-78	-316	-348	-462

1 平成2、7、12年は国勢調査人口(確定値)。

2 平成17年3月1日から平成17年9月1日までの人口は平成12年国勢調査人口(確定値)を基礎に、平成17年11月以降の人口は平成17年国勢調査人口(要計表による人口)を基礎に推計している。

3 平成17年10月1日現在の人口は、平成17年国勢調査人口(要計表による人口)を用いているため、9月1日現在推計人口に9月中の増減数を加えた数値とは一致しない。

4 増減数は、平成2、7、12年が前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

5 算出方法

県の推計人口 = 前月の人口 + 自然増減数(出生者数 - 死亡者数) + 社会増減数(県外からの転入者数 - 県外への転出者数)

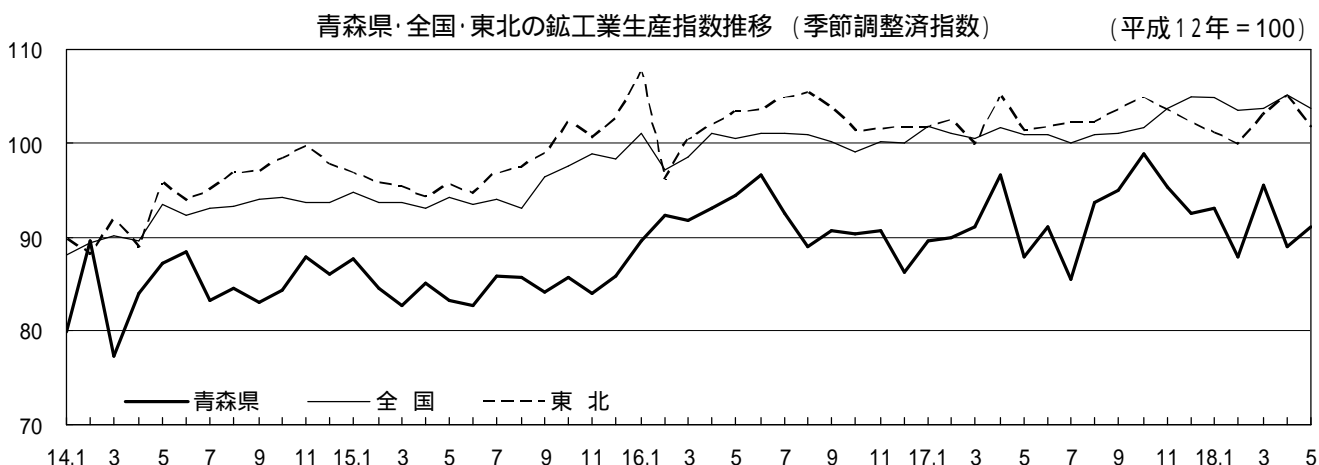
2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

(2-1) 製造業の生産

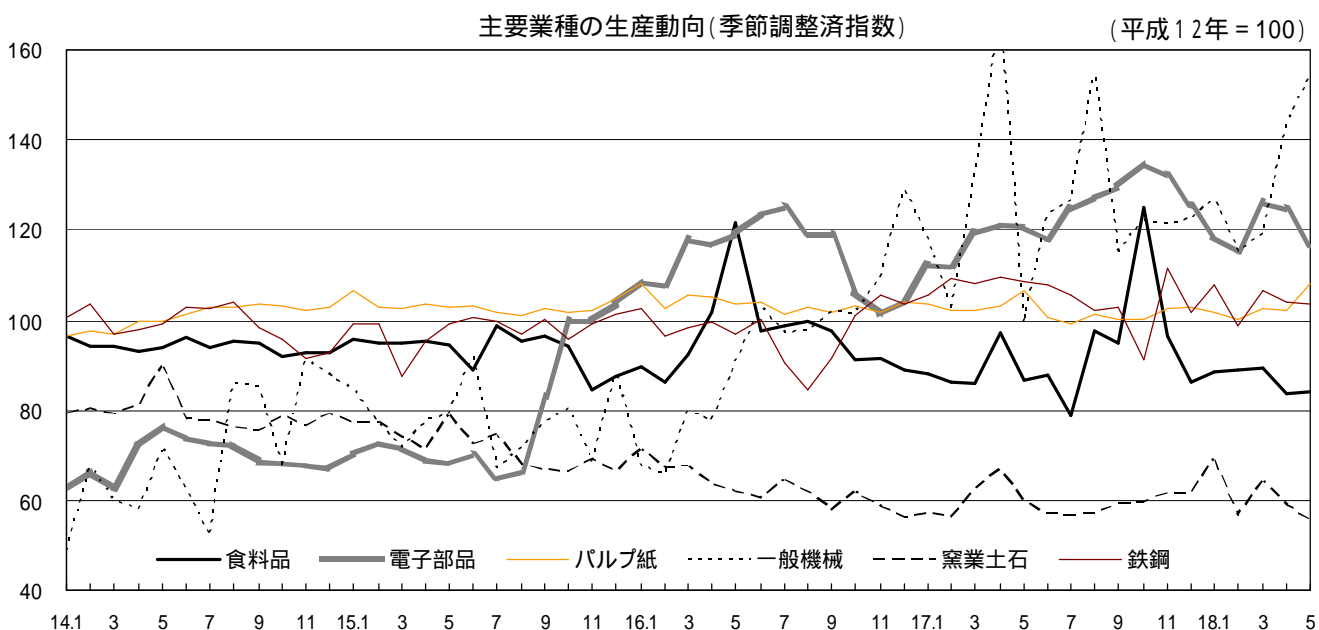
平成18年5月の青森県鉱工業生産指数(平成12年=100)は、季節調整済指数が91.0で、前月比2.4%の上昇となり、2ヶ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は91.7で、前年同月比4.9%の上昇となり、2ヶ月ぶりに前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、化学工業、金属製品工業、一般機械工業などが上昇に寄与した一方、電子部品・デバイス工業、その他製品工業、繊維工業などが低下し、鉱工業全体では2.4%の上昇となった。



業種別動向(前月比) 鉱工業全体 +2.4%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
化学工業	239.9	84.0	電子部品・デバイス工業	-6.7	-20.4
金属製品工業	57.7	28.1	その他製品工業	-38.1	-12.9
一般機械工業	7.5	13.3	繊維工業	-9.6	-6.7
電気機械工業	8.1	11.2	窯業・土石製品工業	-5.6	-4.0
パルプ・紙・紙加工品工業	5.8	10.2	精密機械工業	-6.4	-3.5



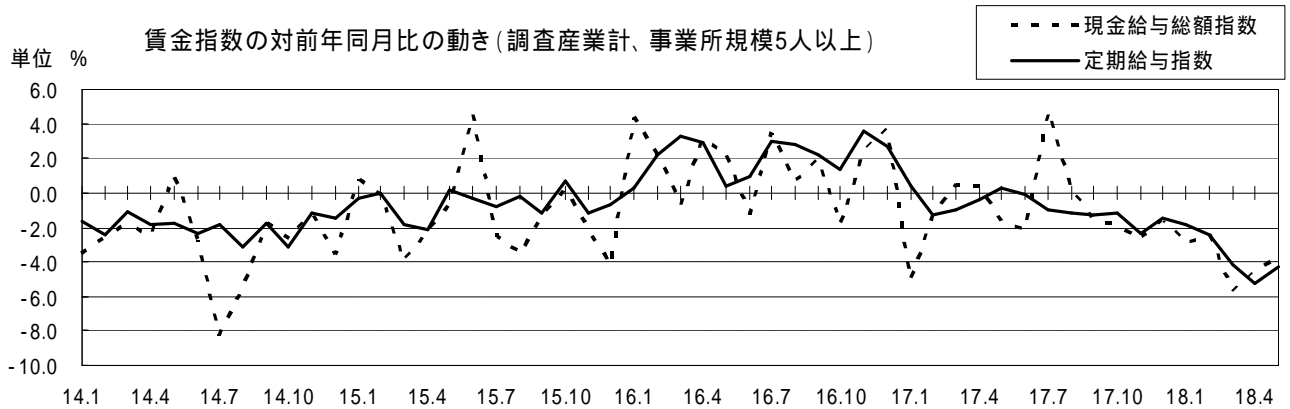
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用情勢

平成18年5月の定期給与は224,093円で定期給与指数(平成12年=100)では94.4となり、前年同月比4.3%減(現金給与総額226,671円、現金給与総額指数78.6、前年同月比3.7%減)となった。実額で比較した定期給与の全国対比は82.7となった。

所定外労働時間は7.9時間で、所定外労働時間指数では91.9となり、前年同月比14.1%減となった。

平成18年6月の有効求人倍率(季節調整値)は0.44倍で、前月より0.02ポイント上回った。

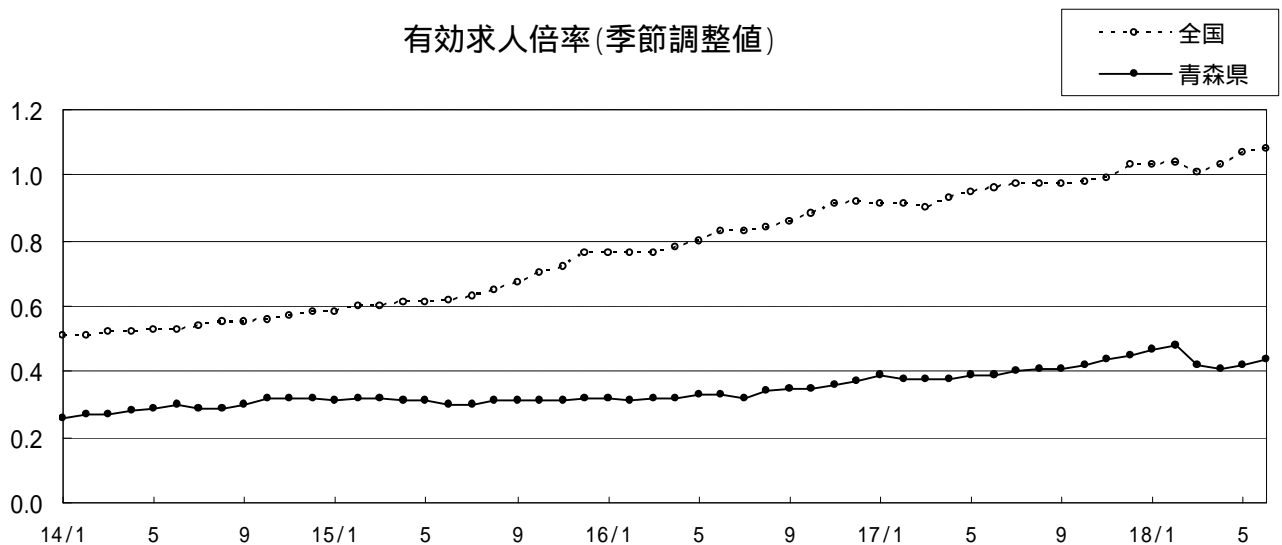


賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実数		指数(H12=100)		対前年同月増減率	
	県	全国	県	全国	県	全国
現金給与総額	229,671 円	278,261 円	78.6	78.8	-3.7 %	0.5 %
定期給与	224,093 円	270,991 円	94.4	96.1	-4.3 %	0.0 %
特別給与	2,578 円	7,270 円				
総実労働時間	154.3 時間	145.6 時間	97.4	94.6	2.2 %	1.3 %
所定内労働時間	146.4 時間	135.3 時間	97.7	93.9	3.3 %	1.1 %
所定外労働時間	7.9 時間	10.3 時間	91.9	105.1	-14.1 %	3.0 %

(注) 1. 定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。
2. 前年同月比は指数によって算出している。

資料: 県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」



資料: 青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

(2 - 3) 物価

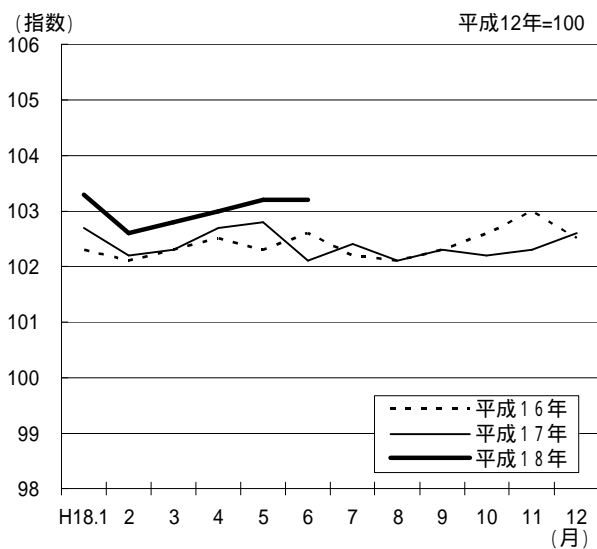
平成 18 年 6 月の青森市消費者物価指数 (平成 12 年=100) は、総合指数が 103.2 となり、前月と同水準、前年同月と比べ 1.1% の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は 103.4 となり、前月と同水準、前年同月と比べ 0.6% の上昇となった。

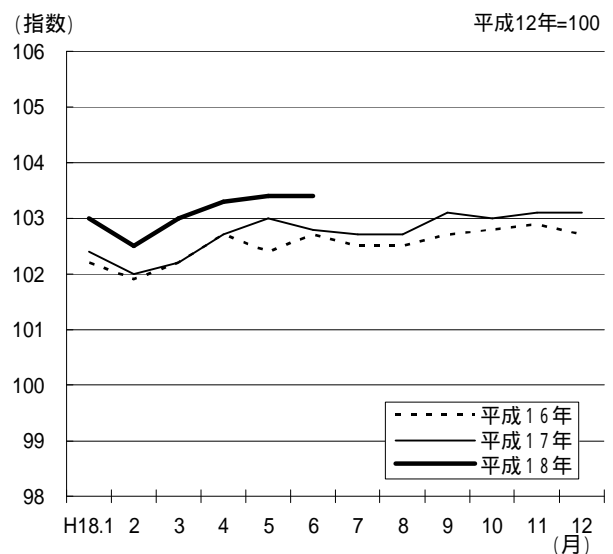
総合指数が前月と同水準となった内訳を寄与度で見ると、食料などの上昇及び光熱・水道などの下落が要因となっている。

総合指数の前年同月比が 1.1% の上昇となった内訳を寄与度で見ると、光熱・水道、食料などの上昇が要因となっている。

総合指数の動き



生鮮食品を除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成 12 年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の 帰属家賃を除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・ 家事用品	被服 及び履物	保健 医療	交通・ 通信	教育	娯楽	養 老	諸 雑費
当月指数	103.2	103.4	98.8	98.2	99.1	122.1	114.4	76.5	88.9	103.6	98.6	111.6	89.0	99.8	
前月比 (%)	0.0	0.0	0.1	0.3	0.1	0.0	0.7	0.0	0.4	0.2	0.2	0.0	0.1	0.0	
寄与度	0.00	0.00	0.08	0.08	0.01	0.00	0.06	0.00	0.02	0.01	0.02	0.00	0.01	0.00	
前年同月比 (%)	1.1	0.6	1.4	1.3	10.7	0.5	8.7	3.4	1.0	0.5	1.9	0.6	0.6	0.5	
寄与度	1.10	0.56	1.17	0.36	0.50	0.12	0.75	0.10	0.05	0.02	0.19	0.02	0.05	0.02	

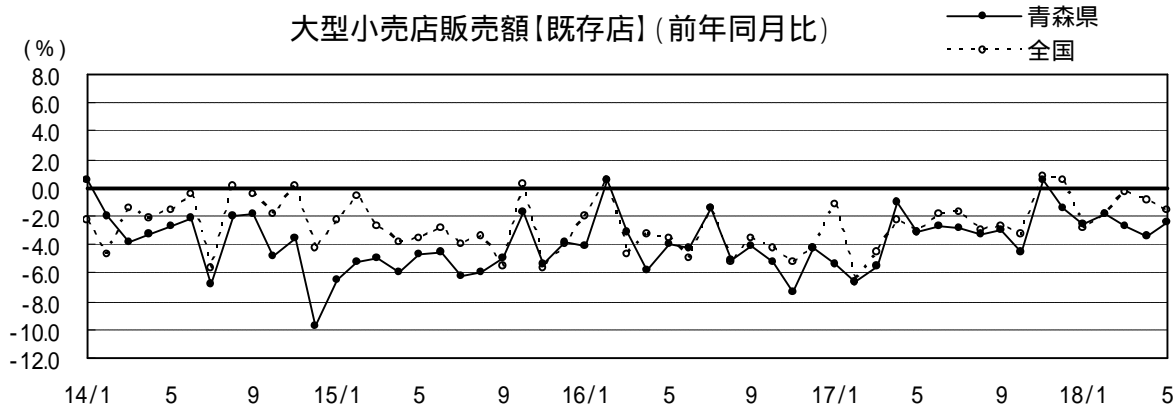
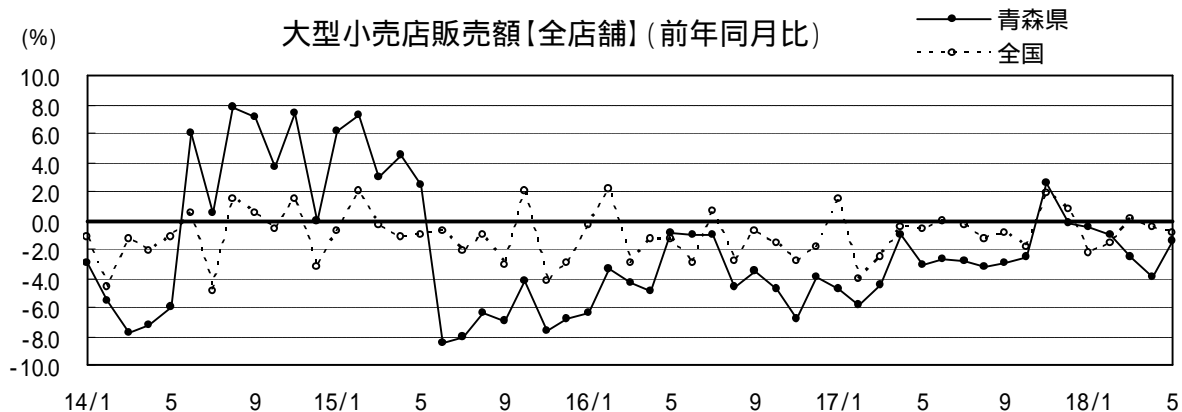
資料：県統計分析課「消費者物価指数月報」(速報)

寄与度とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、総合指数の変化率に一致する。

(2-4) 個人消費

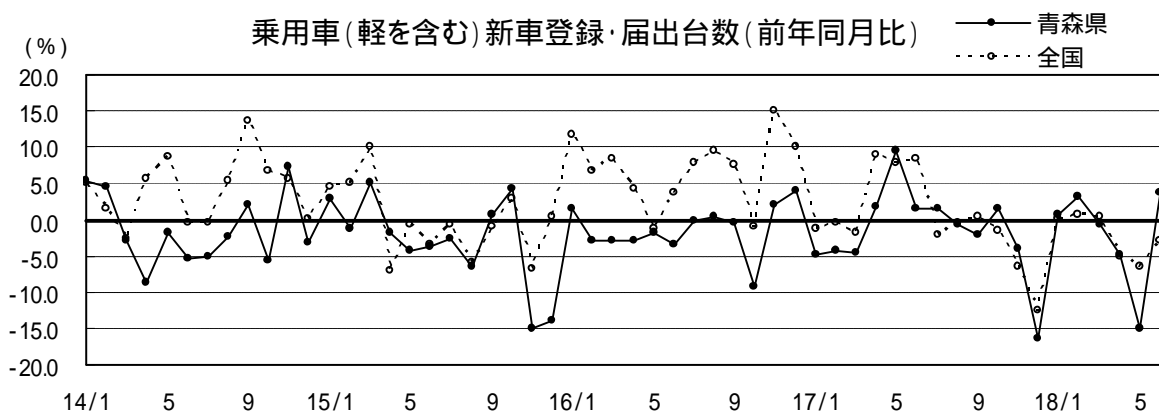
平成18年5月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが142億4千2百万円で前年同月比1.4%減、既存店ベースが2.4%減でいずれも6ヶ月連続で減少となった。百貨店は天候不順等から衣料品が振るわず、飲食料品も伸び悩んだことから3ヶ月連続で前年を下回った。スーパーは飲食料品及び家庭用品に一部動きが見られるものの、全体に低調な動きが続いており、6ヶ月連続で前年を下回った。

平成18年6月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は4,240台で、前年同月比3.7%の増となり、4ヶ月ぶりに前年を上回った。小型車が不振だったものの、軽自動車が2ヶ月ぶりに好調だったことによる。



資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

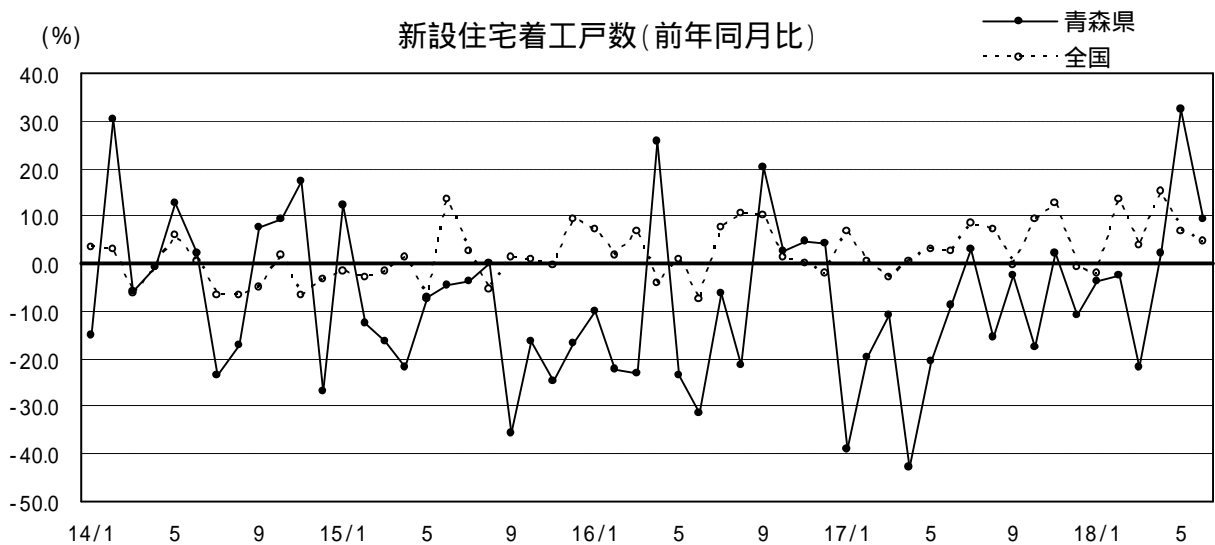
* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。



資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」、日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

(2 - 5) 住宅建設

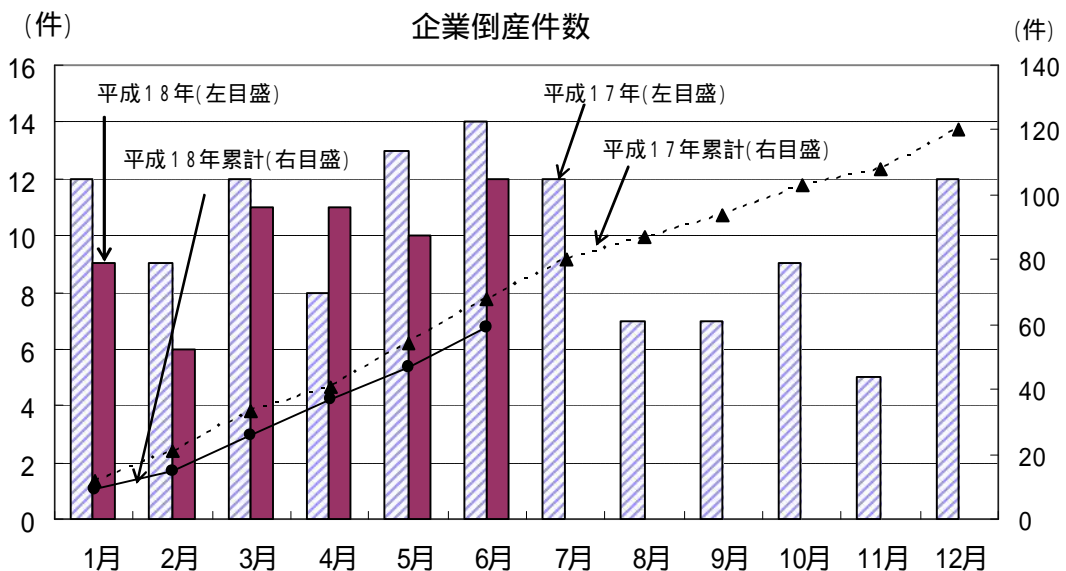
平成18年6月の新設住宅着工戸数は755戸で、前年同月比9.4%増となり、3ヶ月連続で前年を上回った。貸家と分譲住宅が伸びたことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

(2 - 6) 企業倒産

平成18年6月の企業倒産件数は12件で、前年同月比2件(14.3%)減となり、2ヶ月連続で前年を下回った。



資料：(株)東京商工リサーチ青森支店・八戸支店(負債総額1,000万円以上)

(3) 青森県景気動向指数

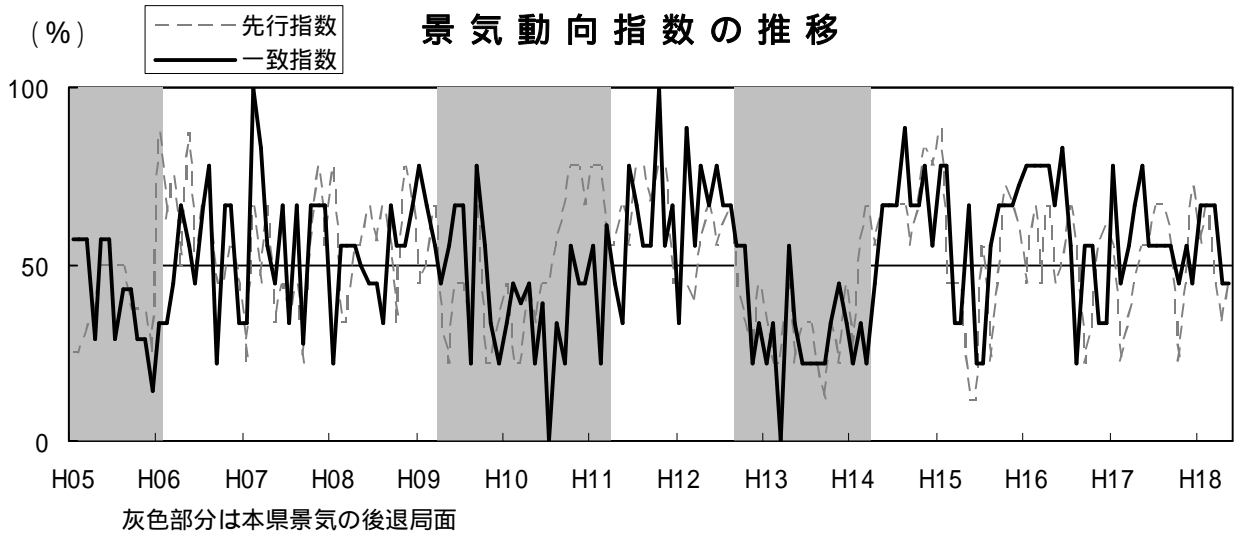
平成18年5月の青森県景気動向指数は、先行指数44.4%、一致指数44.4%、遅行指数83.3%となった。

先行指数は、3か月連続で50%を下回った。

一致指数は、2か月連続で50%を下回った。

遅行指数は、5か月連続で50%を上回った。

5月の一致指数は、雇用関連指標等がマイナスとなったことから、50%を下回った。



個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、5ヶ月前と比較しています）

プラスの指標		マイナスの指標	
先行系列（9指標中4指標がプラス）			
乗用車新車登録届出台数	5か月連続	生産財生産指数	2か月連続
新設住宅着工床面積	2か月連続	新規求人倍率（全数）	4か月連続
建築着工床面積	3か月ぶり	所定外労働時間指数（全産業）	3か月連続
企業倒産負債額	2か月ぶり	入職率（製造業）	4か月連続
		中小企業景況DI	6か月ぶり
一致系列（9指標中4指標がプラス）			
電気機械生産指数	3か月連続	大型小売店販売額（既存店）	2か月連続
大口電力使用量	2か月ぶり	鋳工業生産指数	5か月連続
東北自動車道IC利用台数	5か月連続	有効求人数（全数）	3か月連続
日銀券月中発行高	2か月連続	総実労働時間数（全産業）	2か月連続
		海上出入貨物量（八戸港）	5か月ぶり
遅行系列（6指標中5指標がプラス）			
勤労者世帯家計消費支出（実質）	4か月連続	単位労働コスト（製造業）	5か月ぶり
常用雇用指数（製造業）	2か月ぶり		
1人平均月間現金給与総額	5か月連続		
輸入通関実績（八戸港）	3か月連続		
青森市消費者物価指数（帰属家賃除く）	5か月連続		

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

(4) 青森県景気ウォッチャー調査

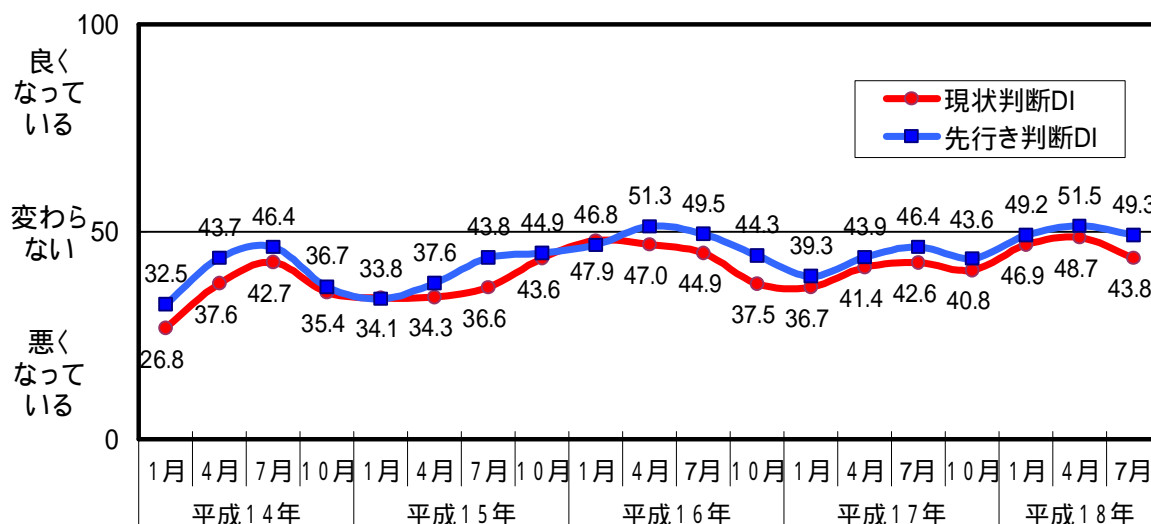
平成18年7月期の景気ウォッチャー調査は、7月1日～7月19日を調査期間とし、回答率100%となった。

3か月前と比べた景気の現状判断DIは43.8で、前期調査を4.9ポイント下回った。

3か月後の景気の先行き判断DIは49.3で、前期調査を2.2ポイント下回った。

7月期は、景気の現状判断DI、先行き判断DIともに3期ぶりにポイントが低下し、いずれも横ばいを示す50を下回った。

景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



3か月前と比べた景気の現状判断

動向	<p>前期調査と比べると、「やや良くなっている」が14.5ポイント減少し、「変わらない」が11.0ポイント増加したことにより、全体では4.9ポイント減の43.8となり、引き続き横ばいを示す50を下回った。</p> <p>判断理由をみると、一部で軽乗用車販売の好調等の声がある一方、低温による夏物商品の低迷や、石油関連製品等の値上がりの影響をあげる声も見られた。</p>
	<p>前期調査に比べて、津軽地区では0.2ポイント増加したが、東青、県南、下北地区ではポイントが減少し、いずれの地区においても横ばいを示す50を下回った。</p>

3か月後の景気の先行き判断

動向	<p>前期調査と比べると、「やや良くなる」が10.6ポイント減少し、「変わらない」が8.0ポイント増加していることにより、全体では2.2ポイント減の49.3となり、横ばいを示す50を下回った。</p> <p>判断理由を見ると、夏から秋にかけての観光シーズンに期待する声がある一方、日本銀行のゼロ金利解除や原油高の影響を懸念する声も見られた。</p>
	<p>前期調査に比べて、県南地区では0.8ポイント増加したが、東青、津軽、下北地区ではポイントが減少した。東青地区で50.8、県南地区で52.5と、2地区において、横ばいを示す50を上回った。</p>

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

(参考)景気ウォッチャーによる景気判断理由(一部)

3 か月前と比べた景気の現状判断理由

自動車の販売でみると軽自動車が好調に売れている。逆に普通車は販売不振傾向で推移しているが、総合的には販売台数が伸びているから。(乗用車販売=県南)

お客様の行動パターンに変化がほとんどない。曜日別に行く店が決まっている。日替わり特売品、ポイントデー、催事、イベントに非常にシビアな対応をしている。(スーパー=東青)

5月、6月の低温で、夏物衣料が苦戦。婦人、紳士ともアパレル関係の消費が低迷。またボーナス期待の高額品も動きが鈍い。夏物低迷により早めのクリアランスで悪循環。(百貨店=津軽)

客足がほとんど変わらない上に、客単価が下がっている。(スナック=津軽)

景気回復は大都市、大手企業を中心に良くなっているようであるが、地方においては依然としてデフレ傾向が続き、厳しい情勢が続いており、中央との格差が拡大していると感じる。(卸売業=県南)

依然として公共工事投資は減少の一方、また、競争激化から落札率は低下傾向。民間市場も競争の激化から落札水準は損益スレスレの状況。(経営コンサルタント=県南)

取扱高の前年割れ。顧客数の減少。(旅行代理店=東青)

石油製品等の値上がりがいりいろな方向に影響を与えている。(タクシー=県南)

×天候不順も多少ありますが、全般に動きが鈍い。お中元商戦に突入していますが、「中元はやめてお歳暮だけにする」というお客様もいる。むつ市内は昨年大型スーパー倒産に続き、安売りスーパーも倒産閉店。また働く場所が減ってしまった。(一般小売店=下北)

3 ヶ月後の景気の先行き判断理由

紅葉シーズンは、県外からのお客様でにぎわっている。(観光名所等=東青)

現状は良くはないが、これ以上悪くならないのでは。これまで淘汰され、生き残った企業がその知恵を発揮する時がきていると思います。(広告・デザイン=津軽)

日銀のゼロ金利政策の解除に伴い、短期金利は上昇し、企業の設備投資意欲はさらに衰える。(ガソリンスタンド=東青)

気温に左右されますので、秋冬が長期予報では不順のようで、夏も来るのが遅く、秋冬も気温がずれ込むことが予想される。秋冬の重衣料販売に期待したいが、厳しい状況。前年キープくらいと予測。(百貨店=津軽)

石油関連の原材料で値上げが打ち出されているが、内部のコストダウンの進捗次第で吸収できるかどうか。(紙・パルプ製造=県南)

地元での求人伸び悩んでいるので、景気回復にはまだまだ時間がかかると思われるため。(人材派遣=県南)

弘前市内でガソリンスタンドを経営しているが、従来のスタンドは閉鎖しているが、新しい形態のセルフスタンドが増えていて、利益がとれるような状態にならない。(ガソリンスタンド=津軽)

仕事がなく景気が悪い上に、マーケットの流出が進んでいると思われます。地元の大型店が倒産したことにより家族連れで買い物(暇つぶしも含む)できる場所がなくなりました。青森へ、下田へ、という言葉がかなり耳にします。地元あまりお金が落ちなくなってきました・・・。(一般小売店=下北)

×夏季一時金の時期であるが、二極化され、支給なし・減組が多くなり、すべて“お金の回り”が鈍化する。(タクシー=東青)

記号の意味: 良くなっている、やや良くなっている、変わらない、やや悪くなっている、×悪くなっている

資料: 県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」